

# 2022年度 第1四半期決算

2022年8月1日

日本軽金属ホールディングス株式会社

1. 2022年度 第1四半期決算

2. 2022年度 連結業績予想

## 第1四半期決算 — 前期比

(億円)

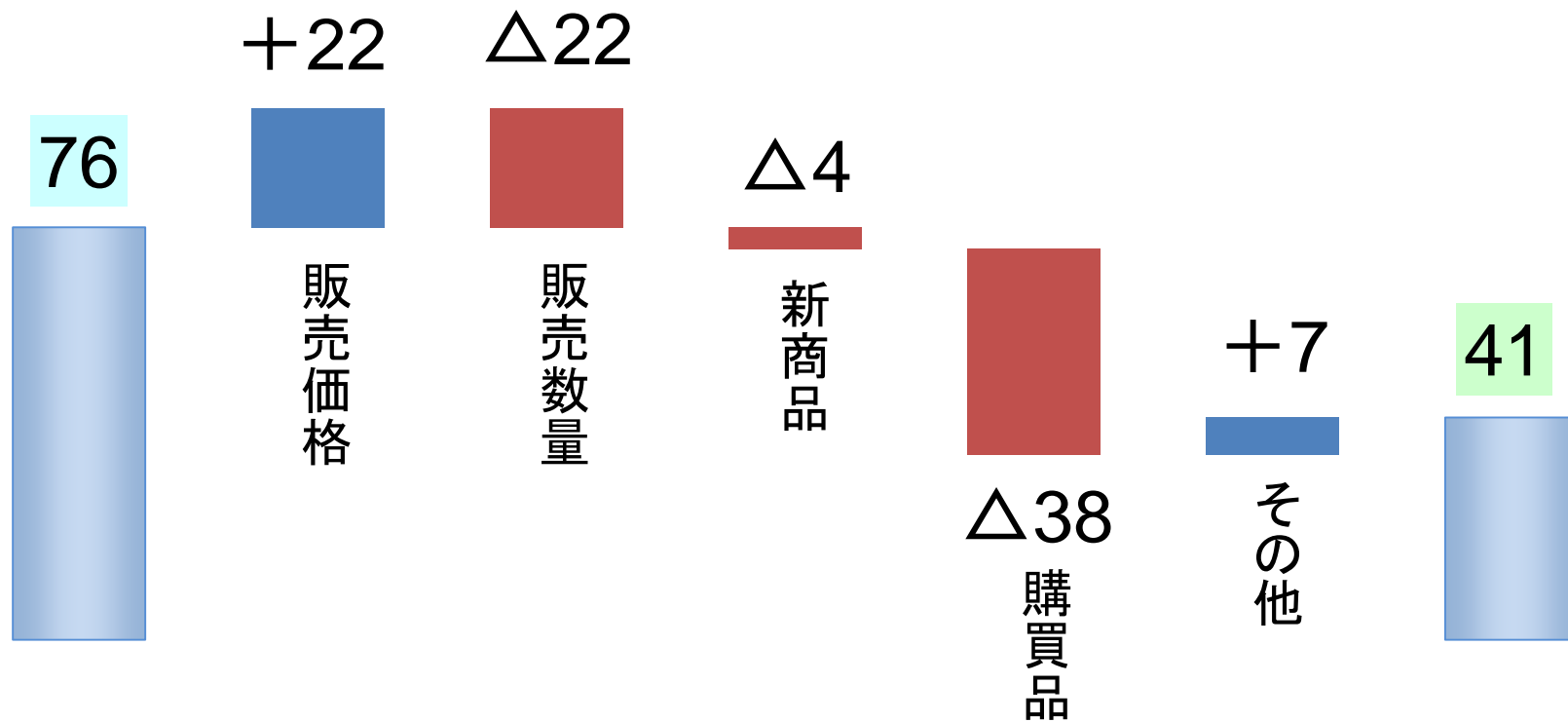
	2022/4-6 実績	2021/4-6 実績	増減
売上高	1,232	1,157	+75 (+6.5%)
営業利益	34	74	△40 (△53.8%)
経常利益	41	76	△35 (△45.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	26	48	△22 (△45.9%)

# 経常利益変化要因 — 前期比

2021/4~6  
実績

△35億円

2022/4~6  
実績  
(億円)

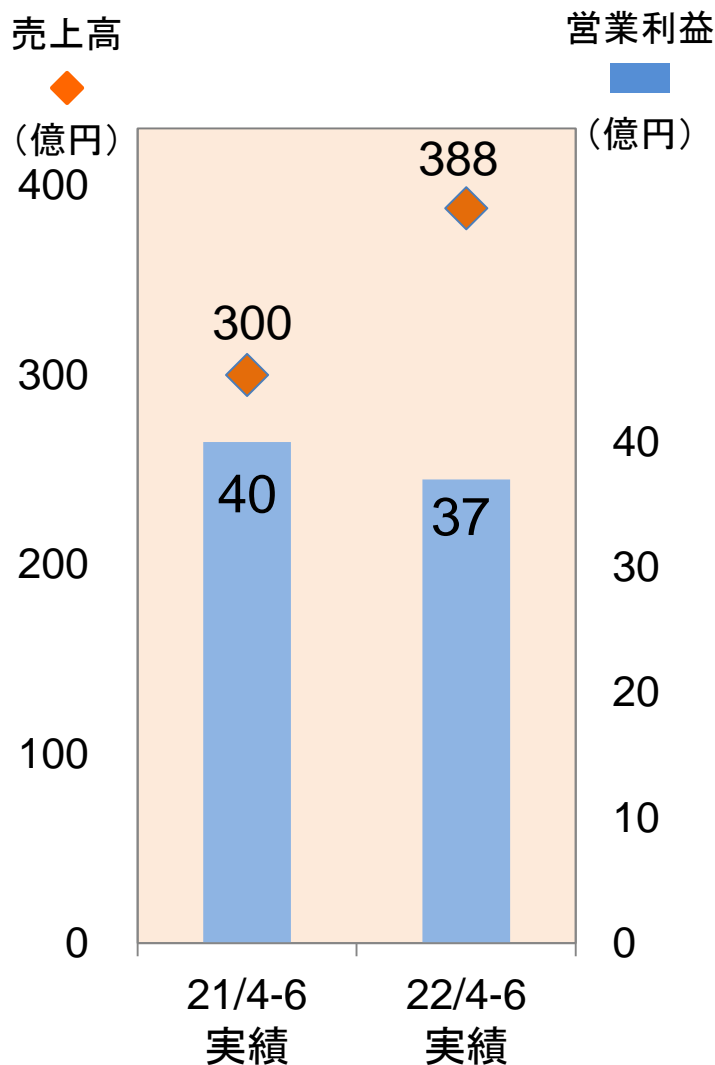


## セグメント情報 — 前期比

(億円)

	売上高			営業利益		
	2022/4-6 実績	2021/4-6 実績	増減	2022/4-6 実績	2021/4-6 実績	増減
アルミナ・化成品、 地金	388	300	+88 (+29.2%)	37	40	△3 (△6.3%)
板、押出製品	279	277	+2 (+0.6%)	12	26	△14 (△53.9%)
加工製品、 関連事業	322	363	△41 (△11.2%)	△13	6	△19 (-)
箔、粉末製品	243	217	+26 (+12.3%)	8	12	△4 (△36.6%)
管理・共通	—	—	—	△10	△10	±0
合計	1,232	1,157	+75 (+6.5%)	34	74	△40 (△53.8%)

# アルミナ・化成品、地金



## アルミナ・化成品

- 販売 : セラミックス・耐火材向け等の需要が堅調に推移。
- 採算面 : 原料水酸化アルミニウムはじめ原燃料価格高騰を受け販売価格改定も、コスト上昇影響大きく減益に。

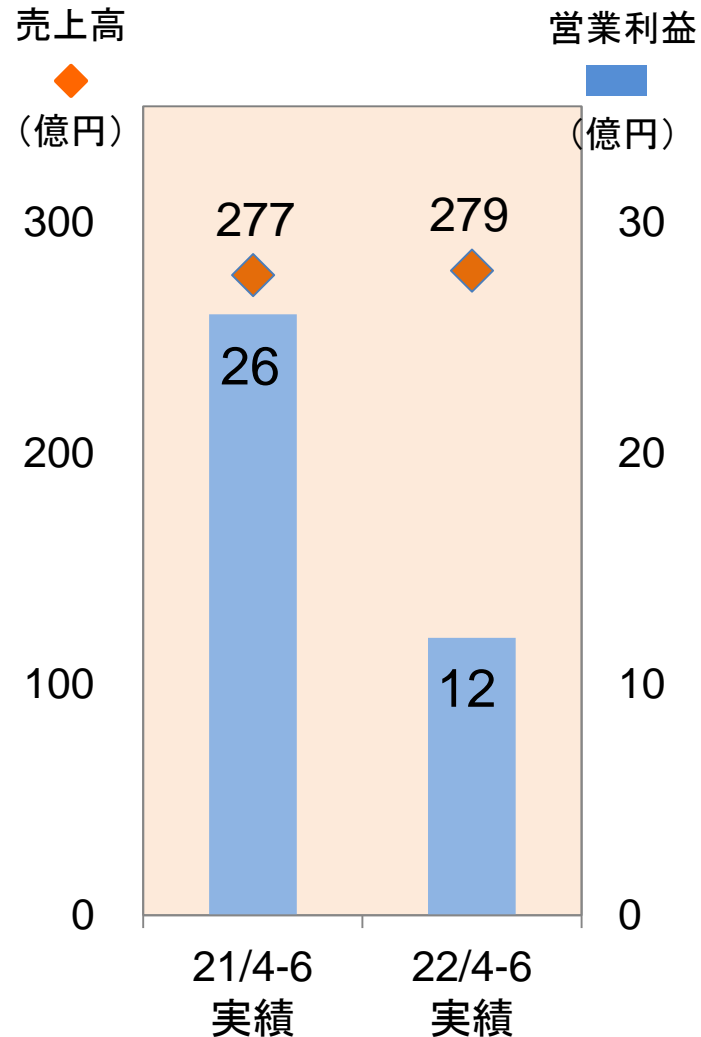
## 日軽エムシーアルミ

- 売上高 : アルミニウム地金価格反映による販売価格上昇で増収。
- 採算面 : 国内・海外ともに自動車減産による販売量減少で減益。

日軽エムシーアルミ販売量 (千トン)

	22年度 第1四半期		
	実績	前年	増減
国内	31.6	34.4	△8%
海外	31.4	35.4	△11%
合計	63.0	69.8	△10%

# 板、押出製品



## 板

- 市場環境 : 半導体製造装置向け厚板の需要が前期に続き好調。
- 採算面 : アルミニウム市況反映の销售价格上昇で増益も  
板加工中国拠点の全持分譲渡の影響で減益。

板事業部販売量 (千トン)

22年度 第1四半期			
	実績	前年	増減
	18.2	17.8	+ 2%

## 日軽金アクト

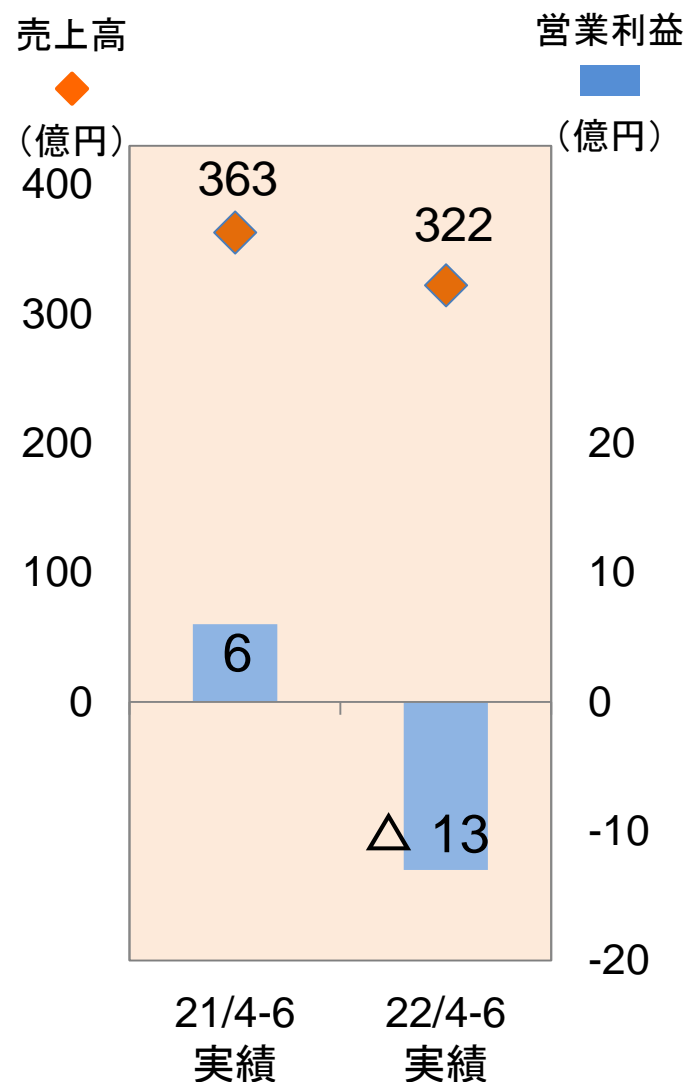
- 自動車関連 : 半導体など部品の供給不足に加え中国での都市封鎖等による自動車減産の継続で減販。
- 輸送関連 : トラックシャシーの減産継続で架装メーカー向け販売が低迷。

日軽金アクト販売量 (千トン)

22年度 第1四半期			
	実績	前年	増減
	7.7	9.5	△19%



## 加工製品、関連事業



## 日本フルハーフ

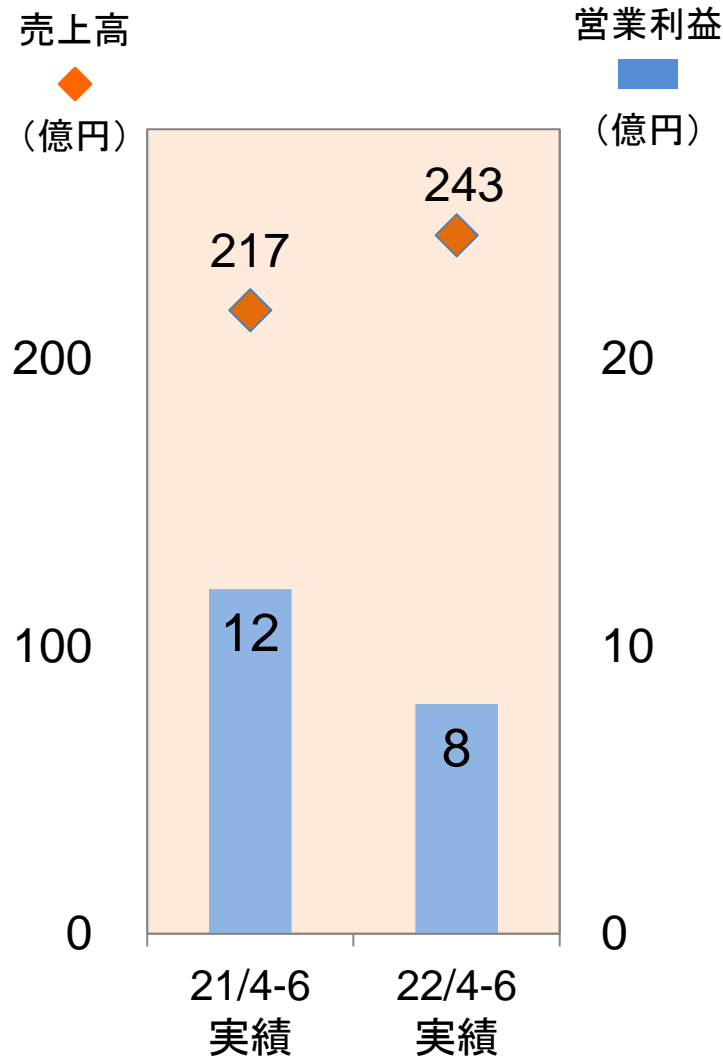
- 販売：半導体等の部品不足や中国での都市封鎖によるサプライチェーン混乱等でトラックシャシー減産影響継続。
- 採算面：減販・操業度低下に加え、アルミニウム等の市況価格高騰による材料価格上昇も影響し大きく減益。

## 日軽パネルシステム

- 冷凍・冷蔵分野：冷凍食品等の需要拡大で食品工場向けが堅調に推移。
- クリーンルーム：半導体関連の産業用クリーンルーム向け好調に加え、医薬品関連のクリーンルーム向けが増加。



# 箔、粉末製品



## 東洋アルミニウム

### ■ 売上高:

#### <箔部門>

- ・リチウムイオン電池外装用箔は車載向けで減販も、地金価格反映の販価上昇やインド子会社の連結化で前年同期上回る売上高に。

#### <パウダー・ペースト部門>

- ・粉末製品は半導体・サプライチェーン影響で減販、ペースト製品は自動車減産で国内減販も海外増販もあり増収、部門では前年同期比増収。

#### <日用品部門>

- ・コンシューマー向けはハウスクエア用品やアルミホイルで減販もパッケージ用品向けは外食向け・冷凍食品向け回復で増販。

- ### ■ 採算面 :
- 自動車減産等による減販影響に加え、原燃料価格高騰によるコスト上昇もあり減益。

1. 2022年度 第1四半期決算
2. 2022年度 連結業績予想

## 通期業績予想 — 前期比

2022年5月16日公表値 据え置き

(億円)

	2022年度 予想	2021年度 実績	増減
売上高	5,400	4,866	+534 (+11.0%)
営業利益	200	222	△22 (△9.9%)
経常利益	200	229	△29 (△12.7%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	140	168	△28 (△16.7%)
1株当たり配当金	(※)85円	85円	±0

※中間40円/株・期末45円/株、配当性向37.6%

## セグメント情報 — 前期比

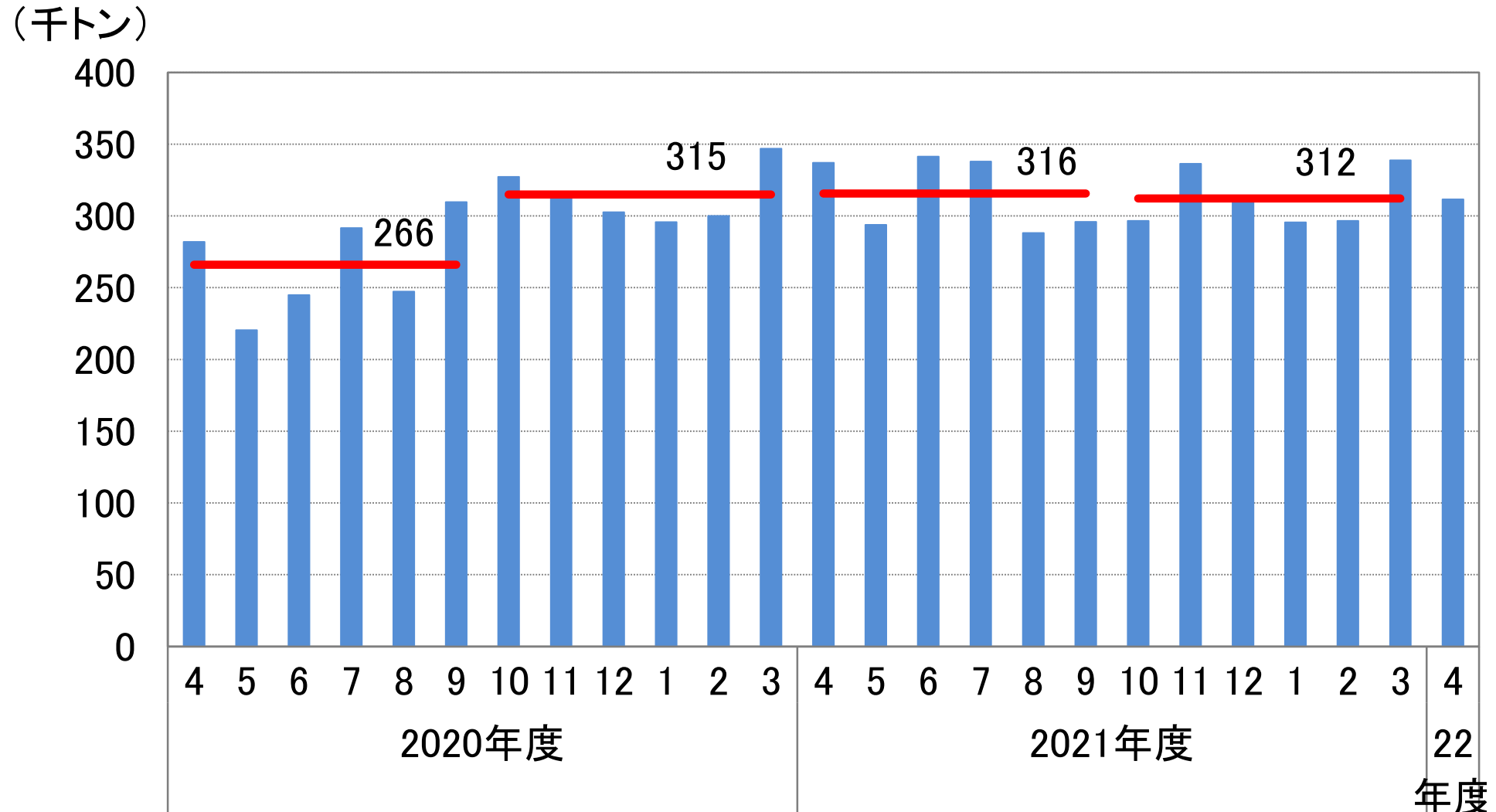
2022年5月16日公表値 据え置き

(億円)

	売上高			営業利益		
	2022年度 予想	2021年度 実績	増減	2022年度 予想	2021年度 実績	増減
アルミ・化成品、 地金	1,610	1,276	+334 (+26.1%)	125	130	△5 (△4.0%)
板、押出製品	1,090	1,139	△49 (△4.3%)	40	75	△35 (△46.8%)
加工製品業 関連事業	1,670	1,534	+136 (+8.9%)	35	38	△3 (△7.3%)
箔、粉末製品	1,030	917	+113 (+12.4%)	40	16	+24 (+154.8%)
管理・共通	—	—	—	△40	△37	△3
合計	5,400	4,866	+534 (+11.0%)	200	222	△22 (△9.9%)

# 補足資料

# 国内アルミ製品総需要の推移



<出所: 日本アルミニウム協会>

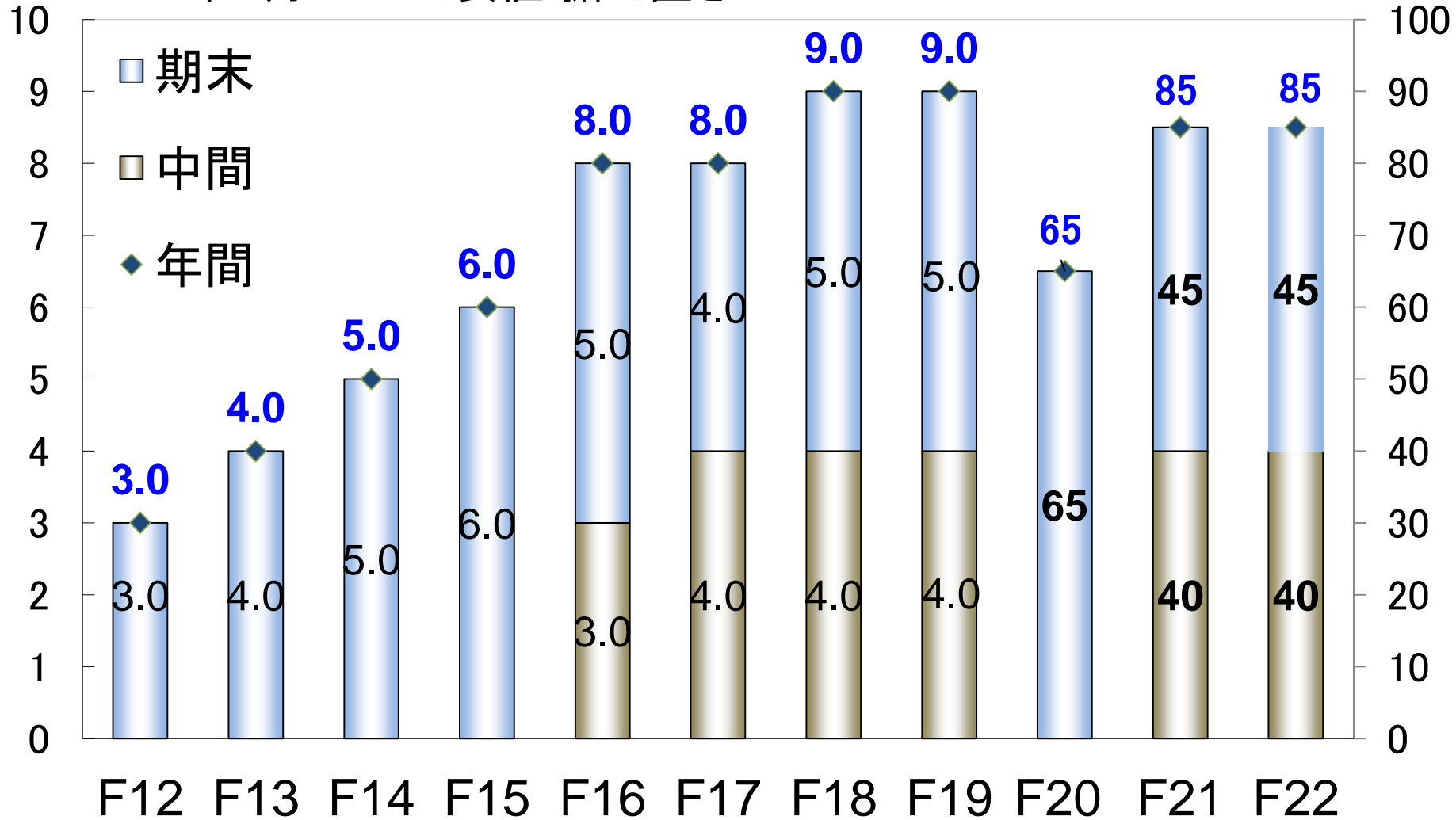
## 諸元と感応度

	2022年度 予想	2021年度 実績	経常利益への 感応度
アルミ地金 (円/kg)	390	378	10円/kg上昇した場合 △5億円/年
為替 (円/米ドル)	115	113	10円円高となった場合 △5億円/年
ドバイ原油 (米ドル/BBL)	85	78	10ドル/BBL上昇した場合 △6億円/年



# 1株当たり配当金

2022年5月16日公表値 据え置き



当社は2020年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。

本資料についての注意事項

1. 本資料は2022年3月期の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の購入や売却を勧誘するものではありません。
2. 本資料のなかで記述しております将来の動向や業績等に関する見通しは、歴史的事実でないためリスクと不確定な要素を含んでおり、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、予測しえない経済状況の変化などさまざまな要因により見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。実際の業績に影響を与える重要な要因には、当社グループを取り巻く経済情勢、社会的動向、当社グループの提供する製品やサービス等に対する需要動向による相対的競争力の変化などがあります。なお、業績に影響を与える重要な要因は、これらに限定されるものではありません。
3. 本資料の中で記述しております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、今後予告なく変更される場合があります。
4. 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。